



# 函南・ぶなの森通信 3月号



## ～目次～

- ・成人式
- ・どんど焼き
- ・デイサービス・特養 豆まき
- ・ぶなの森の挑戦～職員交流活動②～
- ・外国人財プロジェクトのその後
- ・編集後記

## ～成人式～

1月12日函南・ぶなの森理事長室にて成人式を行いました。今年1名の職員が理事長からお祝いのお言葉をいただきました。これからも仕事、私生活共に充実した日々を送っていただきたいです。



介護の仕事も2年目になりますが、時折失敗してしまうこともありました。失敗から多くのことを学び、次のケアに活かし、利用者様に寄り添った自分らしいサポートができる職員へ成長していきたいです。 神取杏



## ～どんど焼き～

1月15日の小正月にどんど焼きを行いました。当日はとても天気良かったので、デイサービスのご利用者様全員外に出て、点火を見守りました。今年も函南町立西部保育園の年長児さん達も遊びに来てくれました。初めてどんど焼きを見る園児も多かったようで、燃え上がる炎とパチパチという音にびっくりした様子でした。特養の入居様はベランダからの見学でしたが、階下から聞こえる子どもたちの元気な声に、皆さんとても嬉しそうな笑顔を浮かべていました。子どもも大人も皆一緒に楽しんだどんど焼きでした。園児の皆さん、来年もお待ちしています。



## ～デイサービス・特養 豆まき～

2月3日デイサービスと特養で節分のイベントを実施しました。デイでは鬼退治ならぬ鬼ボーリング！思うように退治してくれない鬼にヤキモキしながら思いっきりボールを投げていました。



## ～ぶなの森の挑戦～ 「職員交流活動②」

令和8年度の職員交流活動に向けて準備中ですが、4月には新卒職員の入職が決まっています。職員交流活動はケアの質を高めるとともに「離職防止」のための取り組みでもあります。最大の経営課題の一つが「人材の定着」です。採用に力を入れても、離職が続けば、現場の負担は増し、サービスの質にも影響を及ぼします。ぶなの森では、離職防止を「個人の努力」ではなく、組織の経営課題としてとらえています。その中の取り組みの一つが職員交流活動です。人が職場をを離れる理由の多くは、給料や業務量だけではありません。「相談が出来る相手がいない」、「自分の頑張りが理解されていない」、「孤立感を感じる」こうした人間関係や心理的安全性の欠如が離職の引き金になるケースは少なくありません。

交流活動を通じて、部署や職種を超えたつながりが生まれることで、困ったときに声を上げやすい環境が整います。これは、メンタル不調や早期離職の予防策として重要な意味を持ちます。また、職員の業務効率化といった経営面での好循環を生み出します。

職員交流活動は、コストではなく、「人材流出を防ぎ、組織力を高めるための経営投資」です。今後も、職員が安心して長く働ける環境を整えることが、最終的には利用者様への安定した支援に繋がると考え、法人全体で取り組みを継続して参ります。

職員交流運営メンバー 鈴木綾子



## ～外国人財プロジェクトのその後～

2023年12月、函南ぶなの森で「外国人介護人財プロジェクト」が発足しました。あれから約2年が経過し、現在函南ぶなの森ではベトナム人2名、インドネシア人1名、フィリピン人1名、ミャンマー人2名、ネパール人1名の計7名の外国人スタッフが働いています。(2名産休中)そして2月中旬、新たにインドネシアから3名の仲間を迎えました。外国人スタッフの皆さんは日本語の習熟度にも差があり、伝え方に工夫が必要な場面はありますが、皆、一生懸命でとても優しいという共通点があります。殆どの外国人スタッフは介護業界で働くために初めて日本にやってきました。全く知らない国に来て、日本語も文化も仕事も覚えなければならないのは本当に大変だと思います。その優しさや勤勉さは日本人の職員も見習わなくてはいけないと思います。利用者様達も可愛い孫の様にすぐに受け入れてくださいました。新しい3人の仲間も周りに頼りながら少しずつ慣れて欲しいと思います。



～編集後記～ 今年度もご覧いただきありがとうございました。1年間のぶなの森通信を振り返りますと、色々な行事を行ったなど実感します。そして毎回職員が「利用者様を楽しませよう」と本当に一生懸命取り組むのが印象的でした。来年度も沢山のイベントを予定しています。その一部でも皆さんに紹介することで、ぶなの森をより身近に感じていただければ幸いです。 ～伊藤～



発行日 令和8年3月1日  
 発行者 社会福祉法人 函要会 函南・ぶなの森  
 〒419-0114 静岡県田方郡函南町仁田 284-5  
 ☎055-970-1127

